図 書 館 だ よ り

12月号
2015

可児市立図書館
Kani City Library

2015年の人気本

予約が多数かかった人気本ランキングです。【期間：平成27年1月1日～11月24日】

	図書名	著者	出版者		図書名	著者	出版者
1	火花	又吉 直樹	文藝春秋	11	満願	米澤 穂信	新潮社
2	ラプラスの魔女	東野 圭吾	KADOKAWA	12	悲嘆の門(上・下)	宮部 みゆき	毎日新聞社
3	サラバ！(上・下)	西 加奈子	小学館	13	絶唱	湊 かなえ	新潮社
4	あの家に暮らす四人の女	三浦 しをん	中央公論新社	14	流	東山 彰良	講談社
5	フランス人は10着しか服を持たない	ジェニファー・L.スコット	大和書房	15	21世紀の資本	トマ・ピケティ	みすず書房
6	鹿の王(上・下)	上橋 菜穂子	KADOKAWA	16	田園発港行き自転車(上・下)	宮本 輝	集英社
7	キャロリング	有川 浩	幻冬舎	16	過ぎ去りし王国の城	宮部 みゆき	KADOKAWA
8	リバース	湊 かなえ	講談社	18	天空の蜂	東野 圭吾	講談社
9	マスカレード・イブ	東野 圭吾	集英社	19	一〇三歳になってわかったこと	篠田 桃紅	幻冬舎
10	家族という病	下重 暁子	幻冬舎	20	美しき凶器	東野 圭吾	光文社

職員のおすすめ《この書き手に注目！》

ピエール・ルメートル

（1951年フランス・パリ生まれ）
脚本家を経て、2006年小説家デビュー。2013年英国推理作家協会（CWA）賞インターナショナル・ダガー賞、2015年第12回本屋大賞翻訳小説部門1位などの他、国内外で多数受賞している。

翻訳ミステリー小説といえば圧倒的にアメリカ・イギリスの作品が多いようですが、今回ご紹介したい『その女アレックス』（文藝春秋）は、フランス産。

冒頭、いきなり誘拐され、檻に監禁されるアレックス。警察は必死に犯人を追い求めます。犯人は特定できましたが、アレックスは行方不明。ここで状況ががらりとかわり、読者を唖然とさせます。アレックスの視点と警察の視点が交互に繰り返され、ラストにはまた、大きくぐるりと舞台が回り、読者に見える景色は一変します。この驚きがルメートルの魅力です。今年は次々と彼の作品が翻訳されました。どれも一度ならずサプライズが仕掛けられています。油断召されませぬように。

（帷子分館　瀬尾）

倉本　聰

（くらもと　そう　1935年東京生まれ）
ニッポン放送退社後、シナリオ作家に。「前略おふくろさま」「北の国から」「風のガーデン」などのテレビドラマが話題になる一方で、社会の各方面に目を向けた辛口のエッセイも多数。菊池寛賞・向田邦子賞など多くの賞を受賞。

脚本やエッセイはもちろんおすすめですが、児童文学の棚にある『ニングルの森』（集英社）を紹介します。ニングルとは、山奥に住む「小さな先住民族」。文明以前の暮らしをする彼らの目を通してみると、私たち人間の生活は不可解です。電気・お金・文字などを得て「便利になる」ということは本当によいことなのか、大人が読んでも、あらためて考えさせられることが多い作品です。眠る時間を削ってインターネットやゲームを楽しむ現代人の姿を見たら、ニングルたちは何を思うでしょうか。

大人向けの小説『ニングル』（理論社）も、あわせておすすめします。

（本館　可児）

職員おすすめの本　発表！２０１５私が選んだ３冊

恒例となりました、職員が選んだ「今年の３冊」を紹介します。今年出版された本だけでなく今年話題になったテーマなどを含めました。

『火花』

又吉直樹／著（文藝春秋）小説 913.6 マタ

平凡な後輩・徳永と天才肌の先輩・神谷。二人のお笑い芸人の交流を描いた青春小説です。徳永は神谷を尊敬し師と仰ぎますが、あまりにもお笑いのことしか眼中にない姿を見て、時に哀れんだりまた憧れたりしながら、少しずつ彼の認識を変えていきます。2015年7月の芥川賞受賞作。

『若冲』

澤田瞳子／著（文藝春秋）小説 913.6 サワ

実在の日本人画家である伊藤若冲を主人公とした歴史小説です。若冲とその家族、また京の都で活躍した画家たちとの関係を通して、彼の半生が描かれます。特に自殺した妻の弟・弁蔵との因縁は根深く、互いの人生を変える存在だったことが分かります。

『可愛い世の中』

山崎ナオコーラ／著（講談社）小説 913.6 ヤマ

豆子は32歳のキャリアウーマン。「社会の本音がうっすらと透けて見える」と感じ、子どもを産みたいと考えて結婚を決めました。ところが、結婚式の費用を出しても貯金で家を建てても「夫がやってくれた」と思われてしまうことに気が付き、「お金」について悩み始めます。

（本館　井林）

『モダン』

原田マハ／著（文藝春秋）小説 913.6 ハラ

3・11の時に福島美術館に貸し出されていたワイエスの『クリスティーナの世界』。上司に言われ、引き取りに行くキューレター杏子の葛藤。ニューヨーク近代美術館 MoMA で起こる様々な出来事をピカソ、マティス、ポロック、の作品とともに味わってみてください。

『富士山噴火』

高嶋哲夫／著（集英社）小説 913.6 タカ

平成南海トラフ大地震の時、妻子を亡くした元自衛官の新居は、後悔の念で世捨て人のように生きていた。そこへ記者が訪ねてきて富士山に噴火の可能性があると・・明日にも現実となるかもしれない恐怖。今一度、備えを確認してみるべきと実感させられます。

『油絵　明暗と技法』

グラフィック社／編　山内亮・塩谷亮／著（グラフィック社）芸術 724.3 ア

油絵は難しいと感じている方が多いのではないでしょうか？この本は画材の説明から、制作手順まで分かりやすく書かれています。現在活躍中の作家による手ほどきによって、あなたも挑戦をしてみてはいかがでしょうか？ 意外に簡単かもしれません。

（帷子分館　濱口）

『森は知っている』

吉田修一／著（幻冬舎）小説 913.6 ヨシ

鷹野一彦。四歳の時、猛暑の中、食べ物もない部屋に監禁され、餓死した二歳の弟を抱きしめて寝ていたところを保護される。母親は殺人罪で、懲役三十年。そんな壮絶な体験をした主人公が産業スパイとして働く。ここよりもっと良い場所があると信じて…。

『タモリと戦後ニッポン』

近藤正高／著（講談社）芸能 779.9 タ

タモリのことを書いた本は今までにもあるが、タモリを通して戦後ニッポンの歩みを振り返るという本は、初めてではないかと思われる。タモリを軸に人と人とのつながりをたどっていく中で、戦後70年の日本（人）を描いている。

『流される美学』

曽野綾子／著（興陽館）エッセイ 914.6 ソノ

今までの著作を通して語った作者の人生論。「大体において運命に流され、ただほんの少しだけ、常に流れに棹さして、自分の好みを通す」くらいの生き方がいい。この世で唯一信じていいのは死だけで、死ぬ以上、流されることが自然である。と語っている。

（本館　松浦）

『洋子さんの本棚』

小川洋子、平松洋子／著（集英社）読書 019.9 オ

小説家とエッセイスト、二人の洋子さんが、少女時代から今に至るまで影響を受けた本を紹介しあう対話集。読んだ頃の思い出、文学や母としての思いなど、絶妙な掛け合いで語り尽くす！きっと読みたい本が増えてしまう、読書欲をくすぐられる一冊。

『吉沢久子 97歳のおいしい台所史』

吉沢久子／著（集英社）人物 289.1 ヨ

家事評論家として現在も活躍される吉沢久子さん。戦前、戦中、戦後を、常に前向きな姿勢とアイデアを持って生き抜いてきました。戦後70年の今、忘れてはいけない質実な日本人の歩みが語られています。

『朝が来る』

辻村深月／著（文藝春秋）小説 913.6 ツジ

親子3人で暮らす家族に、ある朝かかってきた「子どもを、返してほしいんです」という電話…。子を産めなかった者と、子を手放さなければならなかった者の人生、家族、葛藤を描いた物語です。壮絶で切ないけれど、最後は温かい感動に包まれます。

（帷子分館　東）

『ドキュメント御嶽山大噴火』

山と渓谷社／編（山と渓谷社）災害 369.3 ド

昨年の御嶽山噴火について、噴火後十日間の状況、被災者の証言、研究者による科学的考察、救助を行った人たちからの報告がおさめられ、「サバイバーズ・ギルト（生き残ったことへの罪悪感）」に悩む生存者への対処法にまで言及し、完成度の高いドキュメント。

『田園発港行き自転車』上・下

宮本輝／著（集英社）小説 913.6 ミヤ

いるはずのない場所で急死した父の足跡を確かめに行った真帆は、思わぬ絆で結ばれた少年に出会う。少年は絵本作家である真帆に偶然にもファンレターを送ったことがあった。ゴッホの「星月夜」を見たくなり、富山県入善町の愛本橋へ行ってみたくなる小説。

『朝が来る』

辻村深月／著（文藝春秋）小説 913.6 ツジ

親子 3 人で幸せに暮らす家庭にかかってきた 1 本の電話が物語の発端。不妊治療、未婚少女の妊娠、弱者が起こしてしまう犯罪など、読むのがつらくなるような社会問題を織り込みながら、子どもに対する母親の愛情について深く考えさせられるミステリー。

（本館　可児）

『気持ちが伝わるイラストが描ける本』

ウマカケバクミコ／著（学研パブリッシング）芸術 726.5 ウ

「今、描いているペンの先には、かならず、人がいる」と著者は言っています。こんな気持ちの詰まった手書きのメッセージをいただいたら、うれしいですよね！そして簡単に書けちゃうなんて…。年賀状のイラストにも参考にしてはいかがでしょう。

『人生に効く名著名作の読み方』

齊藤孝／著（東京堂出版）文学 904 サ

生きるのに疲れたら、太宰治に相談しょう。LINE をやめたら、ニーチェがアドバイスします…。世界に名だたる文豪が悩みに答える人生相談という形式で名著名作全 49 作品を紹介します。

『検査結果なんでも早わかり事典』

小橋隆一郎／著（主婦の友社）医学 492.1 コ

健診・人間ドッグから精密検査の結果まで、気になる検査結果をわかりやすく解説。各検査にかかる時間や苦痛度、準備や注意、異常があった場合の対処法や異常値のときに疑われる病気がわかります。

（本館　小島）

『おにぎらずアイデア帳』

金丸絵里加／著（東京書店）料理 596.3 カ

にぎらないおにぎりだから「おにぎらず」。のりとごはんさえあれば具は何でもアリの手軽さと彩の良さ、そしてなんといってもおいしい！毎日のお弁当が楽しくなるおにぎらずレシピが満載。

『赤の他人だったら、どんなによかったか』

吉野万理子／著（講談社）児童 913 ヨ

転校生は通り魔の娘。僕はその親戚？いじめられている彼女にしてあげられることは⁉「他人とは何か」「血のつながりとは何か」…。中学 2 年生の風雅と聡子、対照的な 2 人の視点から描く物語。

『リバース』

湊かなえ／著（講談社）小説 913.6 ミナ

平凡なサラリーマン、深瀬和久の趣味はコーヒーを飲むこと。その縁で美穂子という彼女もでき、人生に彩りが添えられると思った。そんな矢先、「深瀬和久は人殺しだ」と書かれた告発文が送りつけられ、これまでの人生の闇が次々と再生＝リバースされていく…。衝撃の結末はこれぞ湊かなえ作品！とうならされる。

（桜ケ丘分館　角）

『サラバ！』上・下

西加奈子／著（小学館）小説 913.6 ニシ

2014 年下半期直木賞受賞作。父親の海外赴任先のイランで生まれた圷歩。チャーミングな母と、変わり者の姉の四人家族だ。大阪でしばらく暮らした後、家族はエジプトに向かいます。西加奈子ワールド全開の一冊です。

『神様のカルテ０』

夏川草介／著（小学館）小説 913.6 ナツ

ベストセラー『神様のカルテ』シリーズにまつわる人々の前日譚の短編集です。一止の学生時代、一止が勤務する前の本庄病院、一止の研修医時代、山岳写真家榛名の話。改めてシリーズ初巻から再読したくなること間違いなし！の一冊です。

『君の膵臓を食べたい』

住野よる／著（双葉社）小説 913.6 スミ

あまりに衝撃的なタイトルに読まずにいられませんでした。クラスで人気者の少女と地味で孤独が好きな名前のない『僕』の物語。読み始めて間も無くタイトルの意味が理解できますが、ラストでその意味が違う意味に変わり、更にタイトルの意味の大きさに感動しました。

（本館　櫨山）

『悲しみのイレーヌ』　ピエール・ルメートル／著（文藝春秋）外国小説 953.7 ル

各賞を総ナメにした『その女アレックス』の前日譚。いきなりグロテスクな殺人事件で始まり、読後感が良いとはお世辞にも言えません。が、仕掛けられたトリックに思わず前のページをめくるほどの意外性。刑事たちも実に個性的で、シリーズの翻訳が楽しみです。

『大きなたまご』　オリバー・バターワース／著（岩波書店）児童 933 バ

ある日、ネイトの家のめんどりが、とてつもなく大きなたまごを産んだ。家族は大騒ぎ。そして、生まれてきたものは、なんと…？！長い間絶版で、やっと復刊されました。小学生だった私も、この「生きもの」、すごく飼いたかったです。小学中学年から大人まで。

『太宰治の辞書』　北村薫／著（新潮社）小説 913.6 キタ

北村薫は、「文学の謎」を解き明かしてみせるのが抜群に上手いです。太宰治の「女生徒」にこんな謎があったとは。「水を飲むように本を読む」“私”シリーズ最新作ですが、この 1 冊からでも楽しめます。是非、傍らに太宰作「女生徒」を置いてお読みください。

（帷子分館　瀬尾）

『王とサーカス』

米澤穂信／著（東京創元社）小説 913.6 ヨネ

2001 年、実際にネパールでおきた、王族間の殺人事件。この事件を背景に物語は始まります。しかし物語は意外な方向へ進み、人間社会の重大な問題を浮彫にしていきます。「かわいそう」という言葉の罪深さを考えずにはいられなくなる物語です。

『編み物『英文パターン』ハンドブック』

西村知子／著（東京書籍）編物 594.3 ニ

日本の編み物パターンは物足りないと感じている方、海外のパターンで編み物してみませんか？でも、英文パターンには編み図がないし、英語は苦手だし…。そんな方に手に取っていただきたいのが、この本。まさにバイブルともいえる一冊です。

『若冲』

澤田瞳子／著（文藝春秋）小説 913.6 サワ

2015 年に生誕 300 年を迎え、益々注目される画人・伊藤若冲。この物語は、作者の創作を交えながら、彼の半生を描いています。生身の人間として描かれる若冲。読了後に彼の作品を見直してみると、また違って見えてくるかもしれません。　（本館　篠田）

『満願』　米澤穂信／著（新潮社）小説 913.6 ヨネ

表題の「満願」を含めた 6 つの短編集。どの話も静かに淡々とした語り口で物語が進んでいきますが、巧妙な伏線から衝撃のラストに背筋がゾッとします。ミステリーというよりホラーに近いかもしれません。怖いもの見たさに一気に読み進んでしまう本です。

『村上さんのところ』

村上春樹／著（新潮社）エッセイ 914.6 ムラ

読者から寄せられた質問に対する村上春樹の回答をまとめた一冊。真面目な人生相談からクスッと笑ってしまうようなものまでその内容は多種多彩。真摯に、時に軽くいなしながら答える著者の価値観や考え方に触れることができ、ファンに限らず楽しめる 1 冊です。

『世界の美しい階段』

（エクスナレッジ）建築 524.8 セ

世界各所の美しい 48 の階段を紹介するニッチな写真集。美術品のような装飾がほどこされた階段や、断崖絶壁に刻まれた階段、街角のカラフルな階段など。写真を眺めるだけでも十分に楽しめますが、できれば実際に自分の足で踏みしめてみたくなる階段ばかりです。　（帷子分館　磯道）

『一年後のおくりもの』

サラ・リーン／作（あかね書房）児童 933 リ

小学 6 年生の少女キャリーに起きた不思議なお話。母親の幽霊が会いにきた？！　謎がとけるにつれ、家族の愛について考えさせられます。イギリスの作家によるデビュー作にてベストセラーになった本。今後の活躍が楽しみです。

『お釈迦さまの薬箱』

太瑞知見／著（河出書房新社）宗教 183.8 タ

ユニークな健康法が紹介されています。例えば、「適耳法（てきにほう）」という耳かきの仕方があります。興味深いではありませんか。スジャータの乳粥のレシピも。薬、衛生、習慣の 3 章にまとめられていて読みやすい本です。

『プロメテウスの罠』

朝日新聞特別報道部／著（学研パブリッシング）技術 543.5 プ

現在シリーズ 9 巻です。2011 年 3 月 11 日に起きた大震災、福島原発事故を取材しています。最強の取材チーム（『君に友だちはいらない』参考）による記事は読み応えあり。第 3 巻では近隣、御嵩町に関することも書かれています。（桜ケ丘分館　日比野）

『くらべてわかるきのこ』

大作晃一／写真（山と渓谷社）産業 657.8 オ

食用きのこ・毒きのこを中心に、日本でみられるきのこ約 440 種類の見分け方をくらべて紹介。実際の大きさがひと目でわかるよう写真は原寸大です。

『ＣＯＦＦＥＥ　ＢＯＯＫ』

モルドヴァ・アネット／著（誠文堂新光社）料理 596.7 モ

コーヒー豆の準備の仕方、さまざまな抽出器具の習得方法、バリスタの華麗なラテアートテクニックなどを丁寧に解説。世界各地 100 を超えるコーヒーレシピ集や世界のコーヒー豆ガイドも収録してあります。

『大江戸科学捜査八丁堀おゆう』

山本巧次／著（宝島社）小説 913.6 ヤマ

江戸両国橋近くに住むおゆうは、実は元 OL のアラサー女子　関口優佳。家の扉をくぐって江戸と現代での二重生活を送っていた。老舗の薬種問屋から依頼を受け、同心の伝三郎とともに調査に乗り出す。ふたつの時代を行き来しながら事件の真相に迫ります。　（帷子分館　溝口）

『トンネルの森１９４５』　角野栄子／著（KADOKAWA）小説 913.6 カド

戦争中に、幼くして母を亡くし、祖母と暮らしていたイコは、再婚相手の新しいお母さんと生まれたばかりの弟と疎開することになる。何かと不便な田舎暮らし。暗いトンネルを歩んでいるかのような、先の見えない日々、子供の目線で戦争を伝えてくれる本です。

『サーカスの夜に』　小川糸／著（新潮社）小説 913.6 オガ

病気を克服できたがために、両親は離婚。薬の副作用で 10 歳から大きくなれないとわかった少年が自分の生きる場所を求めて、両親とのよき思い出のサーカスに入る。サーカスのメンバー達の過酷な生き様や、厳しい日々の中で、少年が成長する姿に心ひかれる本です。

『小説土佐堀川　女性実業家・広岡浅子の生涯』　古川智映子／著（潮出版社）小説 913.6 フル

幕末から明治維新、商都大坂にスーパーレディがいた。豪商加島屋を切り盛りし、女性教育にも心血を注ぎ、大学の創立にも関わった、女性の一代記。一生懸命に、難題を解決して事業を拡大する姿にひかれる一冊です。

（桜ケ丘分館　高田）

『明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい』

樋野興夫／著（幻冬舎）医学 490.1 ヒ

著者は医学博士で順天堂大学医学部付属病院の現役医師。院内のがん哲学外来で患者さんに実際に伝えている「言葉の処方箋」の数々が記されている。「60代になって自分のことばかり考えていたら恥と思え」が強烈な印象でした。

『コーチングとは「信じること」　ラグビー日本代表ヘッドコーチエディ・ジョーンズとの対話』

生島淳／著（文藝春秋）スポーツ 783.4 イ

ラグビー日本代表の W 杯での大活躍は記憶に新しいところ。日本チームをここまでに引き上げたエディコーチとの対話の記録です。ラグビーを通して世界を見つめ、幅広い分野について明晰に語られる言葉から日本スポーツ界、日本社会の問題も浮かび上がる。

『下流老人』

藤田孝典／著（朝日新聞出版）社会 367.7 フ

一億総中流時代は遠い過去の話で今や日本は、生活保護基準相当で暮らす高齢者及びその恐れがある下流老人が大量に生まれている。誰でもが陥る可能性があるその実情と社会的背景、貧困に対する自己防衛策などが書かれています。　（本館　饒村）

『西太后秘録　近代中国の創始者』上・下

ユン・チアン／著（講談社）人物 289.2 セ

西太后は大変有能な政治家であり、西欧諸国の外交官や清国官僚からその手腕を認められた人物だった事は殆ど知られていません。近代的な思考を持ち、中国近代化の礎を築いた西太后の姿を、ユン氏は、膨大な資料を丹念に読み込み、生き生きと描き出しています。

『真田十勇士 ① 参上！猿飛佐助』

小前亮／著（小峰書店）児童 K913 コ

戦国時代末から徳川の世へと変わってゆく時世、師匠や忍びの先輩たちとの出会いと別れを経験し、少年佐助は、真田家に仕える一人前の忍び、十勇士の一人として成長してゆきます。個性的な登場人物、軽快な文章で、アニメやマンガ世代の子ども達にも親しみやすい作品です。

『鉱物レシピ―結晶づくりと遊び方』

さとうかよこ／著（グラフィック社）科学 459.9 サ

まるでおしゃれな手作り雑貨の本を思わせる表紙、実は鉱物が紹介されている科学の本。鉱物の結晶の作り方、鉱物を用いた実験もカラー写真入りで紹介されており、錬金術師になったような気分になります。鉱物を使ったインテリア雑貨の作り方ものっています。

（帷子分館　福井）

『あんずの木の下で』

小手毬るい／著（原書房）児童 210 コ

「光明学校」－日本で初めて設立された障害児のための学校。太平洋戦下に理不尽な理由で学童疎開の対象外に。校長先生は国に見捨てられた命を必至に守り抜いたが、戦争が終わっても学童疎開は終わらず･･･。このやりきれない実話を大人にも子どもたちにも伝えたいという作者の強い思いが込められています。

『火花』又吉直樹／著（文藝春秋）小説 913.6 マタ

今年話題になった第 153 回芥川賞の受賞作品。主人公の若手芸人「僕(徳永)」が癖のある天才肌の先輩芸人「神谷」と濃密な青春の日々を過ごす。おしゃれな街のイメージの吉祥寺を舞台に、尊敬している神谷の優しさを井の頭公園を通して描いています。

『日本人なら絶対に見ておきたい四季の絶景』

絶景トラベル研究会／著（宝島社）地理 291.0 ニ

日本が世界に誇る、美しい日本の四季にこだわった絶景写真本です。四季折々の彩り豊かな写真を見ているだけで癒され浄化された気分になります。全 47 都道府県の厳選スポットを網羅しているので、実際に行く計画を立てたくなることでしょう！

（桜ケ丘分館　小島）

『生きものの持ちかた　その道のプロに聞く』

松橋利光／著（大和書房）生物 480.4 マ

生きものカメラマンである著者が、写真とゆるめの文章とで、様々な生きものの“持ちかた“を指南します。ぜひふれあってみたい生きものから、持つのも見るのもお断りしたい生きものまで、家族でお楽しみください。特に小学生男子にウケること間違いなし！

『円空を旅する』

井上雄彦／著（美術出版社）芸術 712.1 エ

「スラムダンク」、「バガボンド」で知られる漫画家・井上雄彦が、円空の足跡を求めて飛騨高山等、ゆかりの地を旅します。今も変わらず人々に愛されている円空仏に涙する場面も。円空仏入門書として、また井上ファンにもお薦めの一冊です。

『指の骨』

高橋弘希／著（新潮社）小説 913.6 タカ

著者 34 歳でのデビュー作。一貫して静謐な筆致で綴られているのに、胸苦しくなるほど引き込まれます。戦争を知らない著者が想像力で生み出したと言えるこの作品を、さまざまな世代の方に読んでみてほしいと思います。あなたならどう評価するでしょうか。

（本館　熊崎）

『冒険の森へ５　極限の彼方』　（集英社）文学 918 ボウ 5

新田次郎／著『八甲田山死の彷徨』を含む、ジャンルを超えた名作小説集です。人が“極限”の状況で何を選択するのか、イメージを広げて疑似体験できます。「冒険の森へ」は全 20 巻刊行予定で、現在 7 冊所蔵。

『日本文学全集 01　古事記』　池澤夏樹／訳（河出書房新社）文学 Y918 ニ 1

「古事記」の神々は人間臭い。下段の注も面白く、現代語訳でさくさく読めます。池澤夏樹が個人編集した日本文学全集は全 30 巻刊行予定で、現在 12 冊所蔵。他の古典作品も現代の作家が翻訳しており、楽しめます。

『昭和天皇玉音放送　CD ブック』　川上和久／解説（あさ出版）歴史 210.7 カ

「堪え難きを堪え、忍び難きを忍び…」しか知らず、しかもその意味するところを正しくわかっていなかったと衝撃を受けました。戦後 70 年の節目の年ですが、どの世代も歴史を振り返ってほしいです。　（本館　長谷川）

あなたも書いてみませんか？

2015年に私が読んだこの本！ を募集！

あなたが 2015 年の１年間に読んだ本の中で、よかったもの・人におすすめしたいものを書いてください。かんたんな内容の紹介文も書いてください。出版年の古い本や図書館にない本でも OK です。選書の参考にします。また、内容を確認のうえ、可児市立図書館ウェブサイトで紹介させていただきます。

【　本のタイトル・書名　】	【書いた人・著者名】	【出版社】
【　紹介文　】		
【　あなたのお名前（ペンネームも可）　】		

しめきり：１月２８日（木）

この用紙を本館・各分館に備え付けの**「私が読んだこの本！アンケートボックス」**に入れるか、FAX で本館までお送りください。【可児市立図書館本館ＦＡＸ　０５７４－６２－５３０３】

きりとり

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
情報・読書			
019/フ/	**本を読む人だけが手にするもの**	藤原和博／著	日本実業出版社
	なぜ本を読むといいのか？これまで 3000 冊以上の本を読んできた著者が、仕事と人生に効く読書術を紹介する。「これだけは読んでほしい」と思う本 50 冊も掲載。		
070.4/イ/	**池上彰・森達也のこれだけは知っておきたいマスコミの大問題**	池上彰／著	現代書館
	加害性と匿名性、ジャーナリズムと組織メディア、日本のメディアの転換点、メディアとの付き合い方…。池上彰と森達也が、これからのメディアのあり方を幅広く語り合う。		
歴史・地理			
239.3/ハ/	**ぼくたちは戦場で育った**	ヤスミンコ・ハリロビッチ／編著	集英社インターナショナル
	ボスニア・ヘルツェゴビナ、サラエボ、サラエボ包囲について説明し、戦時下のサラエボで育った著者自身の体験を記すほか、戦争中にサラエボで幼少期を過ごした人々の短い思い出などを収録する。		
288.3/ナ/	**いちまき**	中野翠／著	新潮社
	曾祖母が江戸家老の娘だったなんて！亡父の遺品整理から、一族のルーツを辿る旅が始まり…。「負け組」の先祖を身近に感じ、波瀾の歴史に思いを馳せるノンフィクション。		
289.3/ム/	**悪役**	アンドレス・ダンサ／著	汐文社
	国連会議でのスピーチで世界中から注目された、第 40 代ウルグアイ大統領、ホセ・ムヒカ。大統領時代には言えなかった本音を、19 年間、彼に取材を続けてきた現地政治ジャーナリストらが描き出す。		
290.8/サ/	**SATELLITE**	佐藤　健寿／著	朝日新聞出版
	都市、群島、火山、砂漠、廃墟。はるか宇宙から眺めた世界は、美しくも奇妙で、我々の「風景」という概念さえリセットする。超高解像度で撮影された地球の人工衛星写真を集めた、誰も見たことのない「惑星の風景」写真集。		

社会

317.6/ワ/ **いまからスタート マイナンバー制度がだれでもわかる Q&A・チェックリスト** 渡邉雅之／著 第一法規

マイナンバー制度を導入するにあたって、事業者が対応するべき事項をまとめたチェックリストを収録。さらに、マイナンバー制度について、「ゼロからだれでもわかる」よう Q&A で解説。

327.8/モ/ **「家裁の人」から君への遺言** 毛利甚八／著 講談社

末期がんに襲われた著者は、病床で生と死を見つめ直し、佐世保高一同級生殺害事件の加害者少女に贈る最期の言葉を紡ぎ始めた…。漫画「家裁の人」の原作者だからこそ書けた、少年法を考えるための一冊。

371.4/シ゛/ **18 きっぷ** 朝日新聞社／著 朝日新聞出版

人生の岐路に立ち選択を迫られた 18 歳たち。愛知、岐阜、三重に住む 18 歳に取材し、その素顔をポートレート写真とともに紹介する。「朝日新聞」名古屋本社版連載を再編集し、朝井リョウのエッセイを加える。

361.3/タ/ **16 歳からの交渉力** 田村次朗／著 実務教育出版

世界標準のコミュニケーションを身につけて、あらゆる問題を創造的に解決しよう。ハーバードで教えられている「交渉学」の初歩を、部活や進路問題などの悩みを抱える 16 歳の男女 3 人のストーリーを通して、わかりやすく解説。

361.6/サ/ **日本初!たった 1 冊で誰とでもうまく付き合える世代論の教科書** 阪本節郎／著 東洋経済新報社

団塊世代からさとり世代まで、いまの日本社会の各世代の特徴や時代背景、消費のツボ等を解説。クロスジェネレーションという概念のもと、違う世代とのうまい付き合い方や効果的なマーケティング方法を考えるヒントも提示する。

自然科学・医学

440/ヤ/ **生命はいつ、どこで、どのように生まれたのか** 山岸明彦／著 集英社インターナショナル

国際宇宙ステーションで行われている「たんぽぽ計画」の研究者が、「生命の本質」を地球だけではなく宇宙まで含めた研究を通じて解説する。

日本文学ー小説・エッセイ

910.2/ワ/ **戦場で書く** 渡辺考／著 NHK 出版

軍のメディア戦略と従軍作家たちの戦中戦後の軌跡を描き、表現者と戦争・国家・社会との関係を見つめ直す。「NHK スペシャル　従軍作家たちの戦争」「ETV 特集戦場で書く～作家・火野葦平の戦争～」の取材記を単行本化。

913.6/アサ/ **わが心のジェニファー** 浅田次郎／著 小学館

婚約者の求めで日本にやってきた米国人青年。東京、京都、大阪、九州、北海道…。神秘のニッポンを知る旅を始めた彼を待ち受ける驚きの出来事と、感涙の結末とは？浅田文学の最高到達点。

913.6/アリ/ **だれもが知ってる小さな国** 有川浩／著 講談社

はちみつを採集する「はち屋」の息子、ヒコ。ある日、両親の手伝いをしに山に入るが、どこからか声が聞こえて…。誕生から半世紀の時をこえ、佐藤さとるが生み出したコロボックルの世界を有川浩が書き継ぐ。

913.6/ウエ/ **竈河岸** 宇江佐真理／著 文藝春秋

自らの手下を持つよう父に言われた龍之進。頭に浮かんだのはかつて自分が捕らえられなかった男だったー。廻り髪結いの伊三次とお文夫婦の周りで起こる心揺さぶられる事件の数々。

913.6/オキ゛/ **ギブ・ミー・ア・チャンス** 荻原浩／著 文藝春秋

「人生をやり直したい！」と思ったこと、ありませんか？元相撲取りの探偵、相方に逃げられた芸人…。夢をあきらめきれない人々を、ユーモラスに温かく描く、少しだけ心が強くなる短編集。

913.6/カワ/ **あこがれ** 川上未映子／著 新潮社

麦彦とヘガティー、同じ歳の 2 人はイノセンスを抱えて全力で走り抜ける。この不条理に満ちた世界をー。さまざまな〈あこがれ〉の対象を持ちながら必死に生きる少年少女のぎりぎりのユートピアを描く。

913.6/キヨ/ **ヒトでなし　金剛界の章** 京極夏彦／著 新潮社

娘を亡くし、職を失い、妻にも捨てられた。家も、ない。俺は、ヒトでなしなんだそうだ。そう呟く男のもとに、破綻者たちが吸い寄せられる。求めているのは赦しか、施しか、救いか。それとも…。

913.6/ｾﾄ/ **わかれ** 瀬戸内寂聴／著 新潮社

親しい友人も肉親も、愛した男たちもすべて、もうこの世にはいないー。病を乗り越え、90 歳を過ぎてなお、書かずにはいられない衝動に突き動かされ、紡ぎ出された珠玉の小説 9 編。

913.6/ﾄﾞｳ/1 **Killers 上・下** 堂場瞬一／著 講談社

渋谷へ帰ろう。自分がいるべき街は、やはりあそこだ…。「君も殺人者なんだ。自分の欲望を正直に表に出す時がきたんだよ」殺人者（Killers）、覚醒。50 年、3 世代にわたる「Killers」の物語。

913.6/ﾓﾘ/1 **運命の花びら 上・下** 森村誠一／著 KADOKAWA

吉良邸討ち入りによって仲を裂かれた赤穂浪士・前原伊助と、吉良家の奥女中・千尋。以後、日本の歴史を彩った節目に、ふたりの家系に連なる者たちが幾度も巡り会い…。

914.6/ｼﾐ/ **「芸」と「能」** 清水ミチコ／著 幻冬舎

ユーミンのコンサートには男性同士のカップルが多い、「アナ雪」に見る「姫」観の変遷…。清水ミチコと酒井順子、話芸と文芸、2 人の“芸”達者が、自由自在に「芸能」を掘る、掛け合いエッセイ。

914.6/ﾏﾁ/ **スピンクの壺** 町田康／著 講談社

主人・ポチは人間です。本人が主人と自称しているので主人と一応呼んでますが、同時にポチという仇名をつけてやりましたー。犬の目から見た作家の実像を綴ったエッセイ第 3 弾。

外国文学

933.7/ｱ/ **天国からの電話** ミッチ・アルボム／著 静山社

ある金曜日の朝、ミシガン湖畔の小さな町・コールドウォーターで、次々と電話が鳴りだした。その電話は、病気で亡くなった母親や姉、戦地で散っていった息子たちがかけてくる「天国からの電話」だった…。

933.7/ｺ/ **コドモノセカイ** 岸本佐知子／編訳 河出書房新社

親友は、ブタの貯金箱。私の弟は、私の腰から生えている。僕の家は宇宙人に侵略された、絶対に…。あの頃わたしたちは、孤独で、弱くて、ひねくれていて、とても〈変〉だった。名翻訳者が見つけ出した現代“子供”文学 12 編。

展　示　の　ご　案　内

■１１／２８（土）～１２／１３（日）■

平成 27 年度　可児市人権啓発センター、人づくり課合同人権展　**（本館１階）**

12 月 4 日から 10 日は人権週間です。人権とは自分が自分らしく生きるための権利。誰もが身近にある人権問題についてこの機会に考えてみませんか。

（可児市人権啓発センター、可児市役所人づくり課）

■１２／１６（水）～２７（日）■

芥川賞作家「又吉直樹」の読書案内展　**（本館１階）**

今年『火花』で芥川賞を受賞した又吉直樹は何を読んできたのでしょうか？『第２図書係補佐』（幻冬舎）を参考に、又吉直樹のお勧めする本の紹介をします。

花　の　出　張　販　売　の　お　知　ら　せ

予告　**県立加茂農林高校グリーンショップかものう**

１月９日（土）午前 10 時～正午　本館１階ロビーにて。高校生が育てたシンビジウムやシクラメンなど（800～3000 円）を販売します。あわせて、園芸の本の展示もします。本を見ながら鉢花を育ててみませんか？

開館時間 【本館】 平日 10:00～19:00、土日祝 10:00～17:00
【分館】 全日 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日（12 月 7,14,21）
年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

携帯用サイト

「図書館だより」2015 年 12 月号
発行：可児市立図書館　編集：長谷川（本館）　電話（0574）62-5120
資料検索・予約は　http://www.kani-lib.jp/　をどうぞご利用ください。
来年もよろしくお願いします。よいお年をお迎えください。